

# 琵琶湖周辺内湖に設置した生け簀でのホンモロコ・ニゴロブナ成長試験

菅原和宏・孝橋賢一

## 1. 目的

琵琶湖周辺の内湖を増殖場として利用し、地域の水産資源として育成するため、平成29年から内湖へホンモロコとニゴロブナ稚魚を放流し、効果を調べている。一方、放流されたホンモロコとニゴロブナ稚魚が内湖内でどの程度成長するかはわかっていない。そこで本研究では、内湖に生け簀を設置し両魚種を収容して、成長や生残を調べた。

## 2. 方法

湖北野田沼、貫川内湖、乙女ヶ池、松ノ木内湖に生け簀(140 cm×140 cm、水深約70 cm、網目2 mm角)を2つずつ設置(貫川内湖のみホンモロコ用1つ)した。その中にニゴロブナ稚魚(体重0.6 g、体長28 mm)150尾、ホンモロコ稚魚(体重0.3 g、体長28 mm)200尾を別々に収容し、無給餌で4週間(7/22～8/19)飼育した。対照として水産試験場の1t水槽2槽に湖水を注水して両魚種を同様に収容し、配合飼料を飽食させて同期間飼育した。各区の試験終了時の生残率と体重を比較した。

## 3. 結果

各内湖で飼育したホンモロコの体重は、飼育開始時と比較してほとんど変わらなかった(図1)。一方、水産試験場で飽食させた試験区では6.8倍に成長した。ニゴロブナはいずれの内湖でも成長し、各区の体重は松ノ木内湖1.4倍、乙女ヶ池2.1倍、湖北野田沼2.8倍であった。水産試験場で飽食させた試験区は5.7倍であった。

生残率については、ホンモロコは松ノ木内湖が最も悪く68%であったが、他は85%以上であった。ニゴロブナはいずれも85%以上であった(図2)。

以上の結果から、ニゴロブナは内湖に設置

した生け簀内で成長できることを確認した。一方、ホンモロコは成長できなかった。この理由としては、生け簀内にホンモロコが利用できる餌がなかった可能性がある。ニゴロブナとホンモロコが利用する餌に違いがあるのか、また魚体サイズによって利用する餌は変わるのかについては不明であるため、今後検討する必要がある。

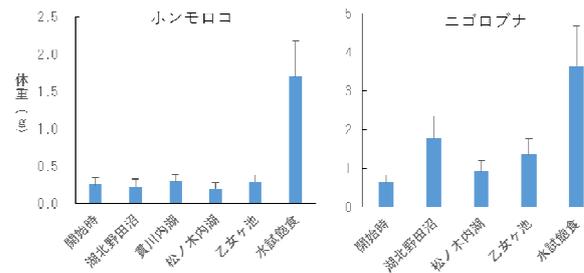


図1. ホンモロコとニゴロブナ稚魚の試験開始時の体重と、内湖または水試で飼育した各区の試験終了時の体重

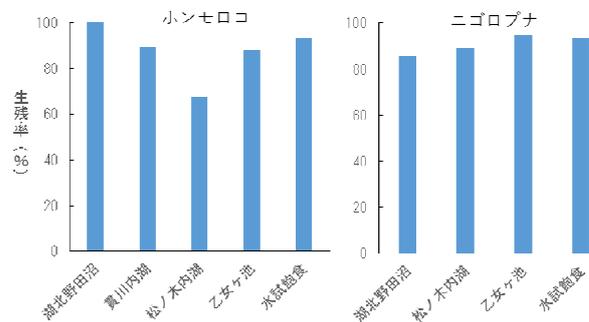


図2. ホンモロコとニゴロブナ稚魚を内湖または水試で飼育した各区の試験終了時の生残率